

令和6年度

市長施政方針

御殿場市

市長施政方針

令和6年御殿場市議会3月定例会において、令和6年度各会計予算並びに諸議案のご審議をお願いするにあたり、私の市政への思い、基本姿勢、並びに重要施策、予算編成の大要をご説明申し上げ、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私はコロナ禍の中、市長に就任し、早2年半近くが経ちました。これまで自らの信念のもと、しがらみのない公平・公正な市政運営を常に念頭におき、覚悟を持って臨み、また多くの方からのご意見に真摯に耳を傾け、時には自問自答もし、粉骨砕身の決意で市政の舵取りを推し進めてまいりました。私は、単に自治体間競争を勝ち抜くだけでは、市民の満足感は得られないと思っています。市民の皆様が、色々な場面で、感動や喜びを分かち合い、苦しい時には、みんなで乗り越えていけるような、そんなまちづくりを理想の姿に描いています。

御殿場市の市政運営の基本姿勢は、「御殿場型NPM」です。市政を「運営」するのではなく、「経営」していくという優れた民間の手法を活かした効果的かつ戦略性を持ったまちづくりをしていくものです。

その根幹は、職員が「市民を想う気持ち」すなわち「市民はお客様」であるというものです。困っている人がいたら積極的に手を差し伸べ、市民の皆様がいま何を考え、何を望んでいるかを、感じて行動していける職員を目指すものであり、私が先頭に立って邁進していく所存であります。

私の市長としての最大の使命は、一言で言いますと、食欲にできる限りの財源、歳入をしっかりと確保して、市民の皆様にご満足していただけるサービスを提供することだと思っています。

その大前提となるものが、強固で健全な財政基盤の確立です。

市長に就任して、2年連続で過去最大の黒字決算、市の貯金である基金については、この2年間で30億円の増額を図りましたが、引き続き、これまで培った経験・知識、更には人脈も活かして、健全な財政運営をして

いくことを、しっかりとここでお約束いたします。

さて新年早々には、思いもよらぬ能登半島地震が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様には、改めて心から、お見舞い申し上げます。

今もなお、被災地では、厳しい寒さの中で、水も電気もない、更に感染症も拡大しているといった悲惨で過酷な生活を強いられています。こうした状況を見ますと、改めて市民の命と財産を守っていく責任の重さを感じるとともに、災害対策の最重要性を痛感したところであります。

本市では、発災当日から緊急消防援助隊を出動させ、更に続けて給水活動や避難所開設、倒壊家屋調査等の支援を継続しております。また被災された方々の住まいを確保するため、県内でも唯一、民間施設のご協力をいただき、40名分の宿泊施設を現在、提供しているところであります。

災害対策は、「備え」が最も大事です。災害に強いインフラ整備の備えはもとより、発災後の避難生活等への「生活の備え」であります。

いつ起こるか分からない有事に備えることの大切さを再認識し、被災地での教訓を活かし、更にレベルを上げての実践的な訓練を展開し、災害から市民の命、暮らしを守るために全力で取り組んでまいります。

それでは、ここで昨年を振り返って見ますと、世界においては、今なお子どもたちまでが犠牲となる悲惨な紛争が続いており、国内においては、物価高など、社会経済において急激な変動が起きた年でありました。その一方で、ワールドベースボールクラシックでの日本の優勝、大リーグでの大谷翔平選手の活躍や、将棋界での藤井聡太八冠の誕生といった明るい話題も生まれました。

私は、令和5年を表す一文字を「和」と表現しました。その理由は、一刻も早い世界平和を願う気持ちと、併せて本市において、様々な場面で、オール御殿場の底力、チームワーク、そして特に、若者の活躍を実感したからです。

また令和5年10月8日を、語呂合わせで「ごてんばの日」と定め、年間を通して多岐にわたる記念事業を開催してまいりました。子どもたちからお年寄りまで多くの皆様に参加していただき、感動や喜びを分かち合い、

まちの元気を生み出し、オール御殿場で盛り上げることができました。

そして、地域通貨「富士山Gコイン」です。スタートから1年半で、市民の6割を超える5万人の加入を達成し、プレミアムデジタル商品券をはじめ、ポイント還元セール、市独自のマイナポイント事業を実施してまいりました。

市民の皆様の生活支援、市内経済活性化、更にはデジタル社会に向けての効果など、予想を超えた大きな成果を生みました。利用できる店舗数も360店を超え、今後更に、様々な分野で、まちづくりの基盤として力を入れて、「富士山Gコイン」の活用を図ってまいります。

次に、本市が策定した「富士山東麓エコガーデンシティ構想」が、静岡県が進める地域循環共生圏の第1号認定を受けたことです。「J-クレジット」とデジタル技術を活用し、環境と経済を好循環させる仕組みを構築しました。温室効果ガス吸収量・削減量をクレジットとして国が認証する「J-クレジット」市場に登録し、本市の良好な森林経営による二酸化炭素吸収量を提供して得た売却益を「富士山Gコイン」の財源として還元するものです。これは全国で先進の「御殿場型モデル」として大きく注目され、本年1月からは正式に始動しております。

また、スポーツにおいては、室伏広治スポーツ庁長官の視察が、全国の自治体で唯一実現しました。県下初となる2年連続で「スポーツ・健康まちづくり優良自治体」の表彰を受けた本市の取組が、評価された結果であります。そして年末の静岡県市町対抗駅伝では、御殿場市チームが、誰も^{たすき}の予想を覆し、見事優勝を成し遂げました。小学生から大人まで懸命に襷をつなぎ、オール御殿場のチームワークで頂点に立つことができました。御殿場駅前での優勝報告会では、多くの市民が集まり感動と喜びを分かちあい、スポーツの素晴らしさを実感しました。

若い世代の活躍も目立ちました。中学生では、柔道日本一が誕生し、御殿場中の駅伝チームは県大会で優勝し、全国大会出場を果たしました。高校生では、御殿場西高校の空手・ホッケー、御殿場高校のハンドボールがインターハイ県予選で優勝して全国大会に出場し、また御殿場南高校の剣道も県大会で見事優勝を収めました。

そして、東京オリンピックのレガシー大会である「空手道マウントフジ・

ジュニアチャンピオンシップ」を開催し、国内屈指の強豪校に加え、静岡県代表、イタリア高校代表チームが参加し、富士山の麓から武道ツーリズムを盛り上げました。

このように令和5年度は、「富士山Gコイン」「J-クレジット」をはじめ、富士山保育園留学、ふるさと納税自動販売機の拡充など、本市の魅力ある取組が大きく注目を受け、先進モデルとして、全国の議会や自治体から多くの視察を受けた年でした。さらに、企業の皆さんから市との連携事業についても多くの提案がなされ、日本郵船による森林整備の取組や、純御殿場産の日本酒・ウィスキーの製造など、注目を集める共同連携プロジェクトがスタートしております。

以上、1年を振り返りましたが、アフターコロナのスタートの年として、これからの御殿場市のまちづくりにとって、欠かすことのできない重要な基盤を築くことができた年であったと思います。

それでは続きまして、令和6年度に向けての私の**基本姿勢**、また**重点的に取り組む施策**について申し上げます。

私の施政の基本方針は「市民とともに歩む情のある御殿場」「御殿場らしい人づくり、まちづくり」であります。令和6年は辰年です。辰年は、物事が勢いを増し、これまでこつこつ努力してきたことが成就する年と言われています。行政にとってはチャンスの飛躍の年と言えます。富士山の恵み、交通の利便性、多くの観光客など、御殿場市しかない強みを最大限に活かして、戦略的に力強くまちづくりを進めてまいります。

令和6年度は、いよいよ市制施行70周年を迎える年です。昭和30年2月11日の御殿場市誕生以来、先人たちのご尽力により、本市は目覚ましい発展を遂げてきました。市民の皆様や本市とゆかりのある方々とともに祝い、今後のさらなる飛躍を誓うためにも、これまでの本市の歩みを後世に伝え、各種記念事業を行ってまいります。記念式典をはじめ、「大相撲御殿場場所」や、四季を通じた「東京ガールズコレクション」との連携事業など、これまでの行政の粋にとらわれない魅力ある事業を実施してまいります。

経済・観光も重要です。富士山の恵み、交通の利便性、そして年間1千

4百万人が訪れる観光客を「力」として、「図書館・資料館」「道の駅施設」「木のおもちゃ館」の建設といった大型プロジェクトを実施してまいります。さらに、防衛技術をはじめとした「科学技術博物館」の検討を進めてまいります。これらの施設は、未来の御殿場市、将来を担う子どもたちへの投資であり、また本市しか成し得ない施設だと思っています。どの施設も魅力溢れる日本一の施設を目指して、私直轄のプロジェクトチームを結成し、力強く推進してまいります。

次に人口減少対策です。本市においては18歳と22歳前後の人口流出が、人口減少の大きな要因になっていることが分析の結果、明確になりました。それをターゲットにした首都圏に通う学生への鉄道定期券助成や、新松田駅から御殿場駅へのシャトルバス運行の試行を行うなど、本市の状況を捉えた効果的な取組を進めてまいります。また子育て世代から要望の強い子育て支援策として、「子ども医療費の完全無償化」「第2子以降の保育料完全無償化」を新規施策として実施し、子育て世代を強力に応援してまいります。併せて本市がすでに策定した「人口減少対策戦略」に基づいて、各方面にわたり、効果的な施策を着実に実行してまいります。

「J-クレジット」の取組については、更に拡大を広げ、富士山の自然環境を守り環境先進都市として全国へ力強く発信してまいります。そして創出された「J-クレジット」を基として、「富士山Gコイン」のポイント付与の財源として市民に還元してまいります。すでに市民の6割が登録した「富士山Gコイン」については、様々な分野でまちづくりに活用を拡大していくとともに、プレミアムデジタル商品券、ポイント還元祭に加え、新たに、夢のある福引き事業も実施してまいります。

またデジタル・DX推進も重要な取組です。市民の目線から、わかりやすく利便性のあるデジタル社会形成に取り組んでまいります。特に、行政サービスにおいて「行かない・書かない・待たない」窓口対応を飛躍的に進めていきます。

さらに、他市町では例のない手厚い生活支援の取組も進めてまいります。

国保税の年間3億円の軽減と上水道料金の割引を行っていきます。また子ども食堂、高齢者移動サービスといった地道に地域の絆を高める活動をされている方々にも寄り添って、市の支援をしてまいります。

以上、特に来年度に力をいれて取り組む施策について申し上げましたが、これらを実現するため、まちづくりの方針として掲げる重点事業として、「経済回復の実現をめざすまちづくり」「“真の子育て支援日本一”を掲げた活力あふれるやさしい福祉のまちづくり」「誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり」「御殿場の風土を活かした環境と観光のまちづくり」を4本柱として全力で取り組んでまいります。

続きまして、ここで**令和6年度の予算概要**について申し上げます。

一般会計の予算額は415億3千万円で、前年度当初予算と比べ、20億3千万円の増となりました。この予算のネーミングは、語呂合わせで「よい子みんなを未来へつなごう！ 子育て支援・積極型予算」です。また、特別会計4つの合計は155億7千万円余で、前年度と比べ、1億5千万円の増となりました。

歳入においては、市税収入は、本市の景気回復を見込み、実質7億9千万円の増を見込みました。地方消費税交付金は、本市独自の経済対策の効果を踏まえ、前年度比2億円を増額し、ふるさと納税寄附金につきましても、本市のPR効果による好調な状況を受け、前年度比2億円を増額しました。

歳出の計上に当たっては、人口減少対策に関する幅広い取組をはじめ、今、市民が必要とするサービスを十分に検証したうえで、多くの新規施策を織り込んでおります。

それでは続きまして、部門ごとに分けまして、令和6年度に取り組む施策についてご説明申し上げます。ここでは、特に新規事業や目玉となる施策に絞って述べますが、先ほど申し上げた内容と重複するところがありますので、ご了承ください。

はじめに、**企画・総務部門に関する施策**について申し上げます。

令和6年度は、令和7年2月に市制施行70周年を迎える節目の年となることから、年間を通して様々な記念事業を実施してまいります。「70周年記念式典」をはじめ、「大相撲御殿場場所」、「東京ガールズコレクション」との連携事業など多くの取組について、70周年記念として市民とともに盛大に祝ってまいります。また昨年10月に実施し大好評をいただいた「ごてんばの日記念事業」もレガシーとして継続して実施してまいります。

「富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏」の取組では、大きく3つを進めてまいります。1つ目は、国の「J-クレジット」と「富士山Gコイン」を活用した脱炭素と地域経済の好循環モデルの構築です。「J-クレジット」の規模も約10倍に拡大してまいります。2つ目は、裾野市・小山町及びパートナーシップ協定を締結する市内金融機関と連携し、温室効果ガス排出量の見える化など、全排出量の約75%を占める産業・業務部門、家庭部門において、二酸化炭素削減を大きく進めてまいります。3つ目は、アジア圏域を中心に若者に絶大な影響力のある「東京ガールズコレクション」と連携し、四季を通して高校生など若者と一緒に社会課題を解決する取組を実施してまいります。

観光施策につきましては、令和9年の新東名高速道路全線開通を見据え、「魅力ある観光地 御殿場」を実現するため、クラウドファンディングによる御殿場の魅力創出や、インバウンド需要の拡大に向けた観光体験商品販売促進など、御殿場の力、富士山の恵みを最大限に活かし、戦略的に観光の推進を図ってまいります。そして、SNSを活用したターゲット広告配信や、首都圏を中心にPR動画配信を行い、更に若者を中心に人気のある御殿場応援大使「なえなの」さんの起用など、御殿場の魅力を発信してまいります。

SDGs 未来都市の推進では、従来のエコガーデンシティ推進協議会を

発展的に再編し、新たに「SDGs 未来都市推進協議会」を立ち上げ、御殿場SDGsクラブや市内中高生等の相互交流やマッチングを促し、地域の課題解決に向けた取組を進めます。

木育のまちづくりのシンボル施設として、御殿場らしさを活かした「(仮称)富士山木のおもちゃ美術館」の建設を進め、そこで遊ぶ子どもたちが木のぬくもりを感じて、笑顔溢れるような施設を目指してまいります。

「道の駅的施設」の整備では、富士山の恵みを象徴する施設として、地元農産物・生產品のブース、飲食エリアのほか、子どもの憩い広場、富士山の水を体感できるゾーンを設け、観光・経済、併せて防災拠点としての機能を有する、日本一の観光客を呼び込む魅力ある施設を目指してまいります。

東富士演習場につきましては、第十二次使用協定が令和7年3月31日に終結することから、しっかり総括した上で、次期協定締結に向けて、諸課題の解決を図ってまいります。

次に、**環境及び市民生活部門に関する施策**について申し上げます。

市民に寄り添った市民相談の取組につきましては、令和5年度に新たに設置した「消費者安全確保地域協議会」を活用し、消費者教育を積極的に進め、詐欺被害の撲滅などを図ってまいります。

交通安全施策につきましては、「自転車用ヘルメット購入費補助金」を新設し、ヘルメット着用率の向上を図ります。特に子どもたちの安全のために尽力されている交通指導員に対しまして、新たに富士山Gコインを新任指導員に3万ポイント、現役指導員世帯に毎年1万ポイントを進呈することで指導員とその家族を支援し、交通指導員の安定確保を図ってまいります。

男女共同参画社会の推進につきましては、男女共同参画都市宣言「大切なのは、これからのこと」をキャッチフレーズに、子どもからお年寄りまで、誰もがその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向けて、着実に取組を進めてまいります。

国際化の推進につきましては、国際交流協会と連携し、教育交流の一環として、中学生を姉妹都市ビーバートン市へ派遣する事業を5年ぶりに実

施いたします。

また市民の皆様への生活支援にも力強く取り組んでまいります。コロナ禍や物価高騰などで経済状態が悪化している自営業者や非正規労働者の方の生活支援のために、年間3億円規模の国保税の大幅な軽減を実施します。さらに、上水道料金につきましても、料金5パーセント割引の期間を更に3年間延長し、市民生活の支援に努めてまいります。

次に、**福祉・健康部門に関する施策**について申し上げます。

福祉施策につきましては、SDGs未来都市として「誰一人取り残さない」をキーワードに、数多くの新規施策に取り組んでまいります。

まず、重要施策と位置付ける「子育て支援」につきましては、子育て世帯の経済的負担軽減と子どもの健康保持を目的に、念願であった18歳未満の「子ども医療費の完全無償化」を実現します。また併せて、県内でも先行して、おかず・おやつ代も含めた保育料の「第2子以降の完全無償化」を実施してまいります。

出産応援につきましては、出生したお子様全員へ、引き続き富士山Gコイン2万ポイントを贈呈してまいります。加えて第2子には3万円、第3子以降は10万円のお祝い金を進呈して、子育て家庭を強力にバックアップしてまいります。

保育所等の運営につきましては、公立保育園・こども園・幼稚園に防犯カメラを設置し、園児や職員の安全確保と施設の防犯体制を強化し、保護者が安心して子どもを預けられる環境を整えていきます。

子どもの居場所として重要な放課後児童クラブにつきましても、入退室確認等のシステム導入を行い、民間の放課後児童クラブにつきましてもバス送迎を支援する補助金を増額し、利用者の利便性を高め、引き続き待機児童ゼロを維持し、安心・安全な環境整備に努めます。

また、全ての妊婦や子育て世帯、子どもへのきめ細かい支援を一体的に行うことを目的に、母子保健と児童福祉を統合して運営する「子育てサポートセンターごてんば」を新たに設置し、虐待やネグレクトを未然に防止するなど、個々の家庭に応じた切れ目のない相談支援体制の強化を図ってまいります。

また御殿場らしい、やさしい移動支援として各地域で行われている地域住民ボランティアによる買い物支援等に対して、新たに車両を確保し、社会福祉協議会に配置するなど、今後の活動の広がりを支援してまいります。

高齢者健やか利用券につきましては、新たに大人用紙パンツ等のドラッグストアでの購入にも対象を広げ、更なる拡充に努めてまいります。

市民の健康増進に向けた施策につきましては、新たに、50歳以上の带状疱疹ワクチン接種費用や、子どものインフルエンザワクチン接種費用の助成を実施してまいります。また各種検診につきましても、新たに胃の内視鏡検診及び肝炎ウイルス検診の一部無料化を行い、更に産後ケア事業や妊婦に対する助成を拡充し、母子へ配慮した取組を進めてまいります。

次に、**産業・経済及びスポーツ部門に関する施策**について申し上げます。

農業振興につきましては、水位センサーによる水田管理、自動抑草ロボットといったスマート農業を推進し、環境負荷低減と、省力化、生産基盤強化を図って、持続可能な農業への転換を目指してまいります。

また、生産者と市民をつなぐ交流の場として好評の「市役所マルシェ」につきましては、担い手グループや女性農業者とともに、障害者施設、連携市町との共同開催も行い、併せて同様の取組を市内全域へ広がるよう図ってまいります。そして農産物の高付加価値化、地産地消を進める中、六次産業化に寄与する農産物加工施設「ふるさと工房」の施設改修を進めてまいります。

林業振興につきましては、木育を象徴する御殿場産木材「ごてんばっ木」の活用を広げてまいります。まずは「ごてんばっ木」のブランド化を強化し、市内木材産業を力強く発展させてまいります。また、「J-クレジット」を活用し、市が主体となって森林整備を大規模に進め、地元林業の活性化や緑豊かな自然環境の保全を図ってまいります。さらに、日本を代表する日本郵船といった民間企業との連携協定に基づく里山づくりや生物多様性のある森づくり、子どもたちの環境教育の場の創造などを進めてまいります。

経済対策につきましては、導入から1年半で、登録者数約5万人を達成したデジタル地域通貨「富士山Gコイン」を、まちづくりの基盤として本

格的に活用してまいります。市内経済の活性化、生活者・事業者支援として、来年度はプレミアムデジタル商品券発行や、ポイント還元祭、夢のある福引き事業など、魅力ある取組を幅広く展開してまいります。

中心市街地に人を呼び込む施策として、好評をいただいている駅前にぎわい創出イベント「駅まえ〜る」の開催や、イベントホール等の利用料金3分の2助成も継続して実施してまいります。

また、商工会など経済団体や産業関連団体との連携により、本市の魅力溢れる各種産業を市内外へ広くPRするため、単独開催で「ごてんば産業フェア」を行ってまいります。

企業誘致につきましては、雇用や地域経済に貢献する優良企業の誘致に途切れることなく継続して取り組み、中外製薬跡地の工専地域におきましても関係事業者との関わりを持って迅速に進めてまいります。また、新たな工業系適地の確保や情報収集に努め、富士山からの恵みである伏流水や交通アクセスの良さをPRし、御殿場の力を活かした企業誘致を戦略的に進めてまいります。

雇用対策につきましては、「合同企業ガイダンス」を年2回、参加企業数を増やして充実を図って開催します。学生の新規採用はもちろんのこと、女性や高齢者などの再就労、障害者雇用に向けた支援等を強化し、多様な人材確保に努めてまいります。また、本市への移住者の就業及び定住を奨励するため、新たに「ふるさと就業奨励金」の交付や富士山Gコイン進呈を行い、UIJターンの増加を図ってまいります。

スポーツのまちづくりにつきましては、全国で注目されている「レガシー空手大会」や「富士山一周サイクリング」等のオリンピックレガシーの象徴的な大会をはじめとした事業に重点的に取り組みます。そして新たに2か年をかけ「自転車活用推進計画」を策定いたします。

また、子どもから大人まであらゆる世代での市民の様々なスポーツでの活躍を、市を挙げ応援して後押しするため、スポーツ賞賜金の対象を拡大します。さらには、市制70周年記念事業として、歴史ある「秩父宮記念富士登山駅伝競走大会」のテレビ放映を実現させ、富士山の麓のスポーツの魅力为全国へ発信してまいります。

次に、都市整備・建設部門に関する施策について申し上げます。

社会基盤となる道路・河川などの公共事業は、全ての経済活動の源であり、地元の産業を下支えするうえで重要なものと考えております。

中心市街地整備につきましては、基幹道路となる「都市計画道路 新橋・茱萸沢線」の整備を進め、令和7年度末までに渋滞の多い若宮交差点までの完了を目指してまいります。

市街化調整区域の整備につきましては、令和9年の新東名高速道路全線開通を見据え、柔軟な土地の利活用を図ってまいります。交通アクセスが飛躍的に向上したことから、豊かな富士山の恵みや全国でもトップクラスの道路基盤を活かし、優良企業を誘致するための新たな工業団地整備を進め、働く場所の確保を図ってまいります。

まちづくりの基盤となる幹線道路の整備につきましては、「幹線市道整備10か年計画」に基づいて、「(仮称) 神山・深良線」「都市計画道路 新橋・深沢線」などの整備を推進してまいります。

次に、危機管理・消防部門に関する施策について申し上げます。

改めて災害対策を最重要課題として、被災された自治体の対応状況を教訓とし、まずは情報の共有、水・食料の確保、災害時必需品の配分、そして医療・介護支援、更にボランティア活動による支援の在り方をしっかり検証し、レベルを上げた実践的な訓練を実施してまいります。

富士山噴火につきましては、今年度末までに策定する新たな「富士山火山避難計画」を、市民の皆様にも正しく理解していただくため、ホームページへの掲載や、各区自主防災会・学校・企業・各種団体組織へ出向いて説明するなど周知を徹底してまいります。

御殿場市の地形上の特性は、新たな着眼点として「分水嶺」の存在があります。最新の科学的知見を受け、これまでの市外の遠くへ避難する方策から、市内でも溶岩流が流れてこない地域に移動する方式への転換を図り、高齢者や障害者の方が身近に安全に、そして生活の負担を感じさせることのない避難方法を作り上げてまいります。

また地域の誇りである消防団員に対しましては、新入団員世帯に富士山Gコイン3万ポイント、現役の消防団員世帯に毎年1万ポイントを進呈す

ることで団員とその家族を支援し、市民の命と財産を守る消防団員の確保を図ってまいります。

次に、**教育部門に関する施策**について申し上げます。

本市の教育は、御殿場市教育大綱の政策方針である「富士山のように大きな心を持った人づくり」の実現に向け、各種施策を推進しております。

本市が推進している「御殿場らしい人づくり」は、まちづくりの根幹をなすものです。特に子どもたちに対しては、本市の歴史や文化、風土に触れることで、郷土の魅力を理解し、愛着心を育むことができるような取組を進めてまいります。人にやさしく、感謝の心を持てる人づくりに邁進していきます。

学校教育が果たす役割は、これからの社会を支える子どもたちの生きる力を育むことであり、それぞれが自立した一人の人間として、充実した人生を歩んでいくために必要となる資質・能力を養うことです。

そのために、御殿場市子ども条例の基本理念に則り、社会全体で子どもを見守り、育てていく環境を整えるとともに、「豊かな感性」「確かな知性」「健やかな心身」の3つを目指すべき柱とし、人間力と社会力を育む魅力ある教育活動を推進してまいります。

具体的には、地域とともにある学校づくりを目指したコミュニティ・スクールの取組を、富士岡・高根中学校区に続き、南中学校区に広げてまいります。そして、特別支援・発達障害児支援補助者の増員を図り、人的資源の一層の充実に努め、誰一人取り残すことのない学びの実現に向けて、取り組んでまいります。

また、増加傾向にある小中学校の不登校児童生徒に対応するため、令和6年4月から新たに「教育支援センター」を開所します。自然が豊かで心を安らげることができる、本市ならではの温かみのある支援センターとして、児童生徒一人ひとりに寄り添いながら、学校復帰や社会的自立に向けた学習活動や体験・交流活動などを支援し、関係機関と連携を図りながら、保護者の教育相談等にも対応してまいります。

また中学校の部活動に関しましては、少子化の中でも将来にわたり、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境づ

くりを目指し「部活動地域移行推進懇話会」を立ち上げ、地域連携や地域移行の在り方について検討してまいります。

「青少年のための科学の祭典」につきましては、市制70周年記念事業として実施し、魅力的な科学実験を行う多くのブースのほか、サイエンスアーティストとして有名な「市岡 元気^{いちおか げんき}」先生の講演も行います。

文化の面では、市民の郷土愛を育むため、「(仮称)御殿伝承地歴史広場」の整備に向けて調査してまいります。

また、いよいよ工事が始まる新図書館・郷土資料館は、富士山の麓に日本一の図書館を目指し、令和8年4月の開館に向けて着実に進めてまいります。

なお、中心市街地に位置する現図書館につきましては、専門委員会を立ち上げ、公共施設としての今後の活用を検討してまいります。

学校給食につきましては、徹底した衛生管理のもと、地場産品を積極的に使用するとともに、近年の食材等の物価高騰に対応すべく、材料費の支援を行うなど、保護者の負担を増やすことなく、引き続き安全安心で美味しい給食の提供に努めてまいります。また、継続して給食費の4分の1助成も実施してまいります。

以上、令和6年度を迎えるにあたって、私の市政に対する所信の一端を述べさせていただきます。本年も強固な財政基盤、健全財政を維持しながら、私が掲げる「市民とともに歩む情のある御殿場」、「御殿場らしい人づくり、まちづくり」に、全身全霊で取り組んでまいります。

ここに重ねて、議員各位をはじめ、市民の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の施政方針といたします。

令和6年2月19日

御殿場市長 勝又 正美